

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第45週	第44週	第45週		第44週		第45週		第44週		第45週		第44週		第45週		第44週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	9	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
咽頭結膜熱	18	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116	115	8	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0
感染性胃腸炎	185	139	69	7	45	12	67	3	43	7	0	0	0	2	2	4	2	3
水痘	39	14	13	4	1	0	13	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
手足口病	32	64	10	2	25	4	2	1	9	3	0	0	0	0	8	1	16	1
伝染性紅斑	30	30	1	16	1	15	0	0	1	0	1	16	0	14	0	0	0	1
突発性発疹	35	24	6	0	8	0	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0
ヘルパンギーナ	10	27	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	6	9	3	6	1	1	1	0	0	0	2	6	1	1	0	0	0	0
RSウイルス感染症	85	56	1	0	5	1	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	0
流行性角結膜炎	18	19	0	1	1	0	0	1	1	0		0		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
<p>流行中</p> <p>〈手足口病〉 主として乳幼児に見られる手、足、口腔内等に小水疱が生じる伝染性のウイルス感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※空気感染(飛沫核感染) 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれて排出された細菌が細菌のみの状態で空气中を漂います。空気の流れによってより遠くに細菌が運ばれます。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>
<p>小流行中</p> <p>〈感染性胃腸炎〉 食品や飲料水をとおり経口的に細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。</p> <p>〈水痘〉 一般に「みずぼうそう」と呼ばれ、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされます。典型例では、発疹は紅斑から始まり、水疱・膿疱を経て痂皮化し治癒します。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染です。</p>	



県中管内で手足口病が流行しています。

毎年、夏を中心として発生し7月下旬に流行のピークを迎える手足口病ですが、県中管内において現在、流行しています。

○症状

- 感染してから3~5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2~3mmの水疱性発疹が出現。
- 発熱は発症者の約3分の1にみられますが、あまり高くないことがほとんどで、高熱が続くことは通常ありません。
- 発病者のほとんどが、数日間のうちに治る病気です。
- まれに、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症のほか心筋炎、神経原性肺水腫、急性弛緩性麻痺など、さまざまな症状が出る場合があります。
- 手足口病の症状が消失してから、1か月以内に一時的に手足の爪の脱落を伴う症例も報告されていますが、自然に治るとされています。



○予防対策

- 手足口病の有効なワクチンはなく、発病を予防できる薬もありません。感染経路を知り、ウイルスに感染しないこと・感染を拡大させないことが重要です。
- 〈飛沫感染予防〉
 - 感染者の咳やくしゃみ等の飛沫を直接浴びないこと
 - 感染者はマスク着用等の咳エチケットを実施すること
- 〈接触感染予防〉
 - 手洗いをしっかりすること
 - 手洗い後のタオルは共用しないこと
- 〈糞口感染予防〉
 - 治癒後も比較的長い間、便などからウイルスが排泄されるため、保育施設など乳幼児の集団生活ではおむつ交換時の排泄物の適切な処理をすること



この情報に関するお問い合わせ先: 県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL: 0248-75-7818

E-mail: kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp